

福島、そして国民の命を守るため、 佐藤栄佐久は巨大な力と命がけで闘った。

2006年9月、5期18年に渡り、県民とともに福島県を築いてきた佐藤栄佐久知事は、突然辞任させられた。何者かが作り上げた「謎の取崩事件」。

裁判の過程で明らかになっていく事実。裁判所は前代未聞の「取崩額0円」の有罪判決を出した。一体何の罪で有罪になったのか、報道は操作され、ゆがんだ情報に国民が惑わされた。

どうしても、佐藤栄佐久を政界から抹殺したかったわけとは、なぜ、原発に近づくものが消えていくのか。

佐藤栄佐久福島県知事は、中央政界での経験をもとに、独自の政治スタイルを確立。国に類らない、地方色を生かした県政を進めてきた。原発立地県として、その安全神話が空っぽであると気づいた時から、巨大な力との果てしない戦いは避けられなかった。

市町村合併、道州制そして原発問題、押し寄せる国策に問題提起するとどうなるか。闘う知事と呼ばれた佐藤栄佐久は、自身の身を持って証明することとなる。

突然の辞任から逮捕、関係者への事情聴取、裁判に至るまでの検察側によるマスメディア報道の信用性。報道されなかった真実が、佐藤栄佐久の証言でいま明らかにされる。

3.11の日も「佐藤栄佐久知事」のままだったなら

—— 飯田 哲也 (NHKエッセイライター・政策研究員 元記)

ニッポンが抱えている深き闇を鋭くえぐり出す

—— 手嶋 龍一 (元文ジャーナリスト・作家)

保守本流が暴いたこの国の病巣

—— 池田 香代子 (フィクショナル作家)

ズシンと胸にこたえる重い内容

—— 下村 満子 (ジャーナリスト)

検察による凶悪犯罪!?

—— 田原 総一郎 (ジャーナリスト)

栄佐久さんを抹殺してほんとうによかったのか

—— 西田 敏行 (作家)

歴史は栄佐久知事を忘れない

—— 開沼 博 (立命館大学准教授)

取崩事件など断じて起こりようがない

—— 小沢 一彦 (建設業商工会議所 名誉会長)

知事を抹殺する平和な国の「怪奇映画」

—— 中谷 健太郎 (九州山形放送局 編の特別班)

本書の言葉全文は公式サイトにてご覧いただけます。

お問い合わせ

ドキュメンタリー映画『知事抹殺』の真実 製作委員会事務局

電話：070-3524-2781

公式サイト：http://eisaku-movie.jp

E-mail：clerk@eisaku-movie.jp

FaceBook：https://www.facebook.com/eisakumovie



さようなら原発・核燃「3.11」弘前集会

ドキュメンタリー映画『知事抹殺』の真実 上映会

日時 2017年3月11日(土) 開場 13:30 開演 14:00

会場 岩木文化センターあそべーる 参加費(映画鑑賞料含む) 500円
弘前市大字賀田1丁目18-4

【主催】核燃・だまっちゃおられん津軽の会 【お問合せ】0172-39-3551 (宮永)